

「強度行動障害のある人を地域で支えるには」実行委員会主催

北九州強度行動障害シンポジウム

# 福岡市における強度行動障がいの取り組み

～ 集中支援事業(か～む)の取り組みを中心に ～



福岡市社会福祉事業団

障がい者地域生活・行動支援センターか～む 所長 森口 哲也

2020/10/04

# 内 容

- 福岡市における強度行動障がい者への支援について
- 障がい者地域生活・行動支援センターか～むについて
- 支援の基本的な考え方
- 支援の実際について

# 福岡市における強度行動障害児者 への支援について

# 福岡市における強度障がい者への取組①

## ■ 福岡市強度行動障がい者支援調査研究会

構成員（平成30年5月現在）

学識経験者2名、行政1名、福岡市社会福祉事業団1名、民間福祉福祉機関2名、医師1名

### 設置目的

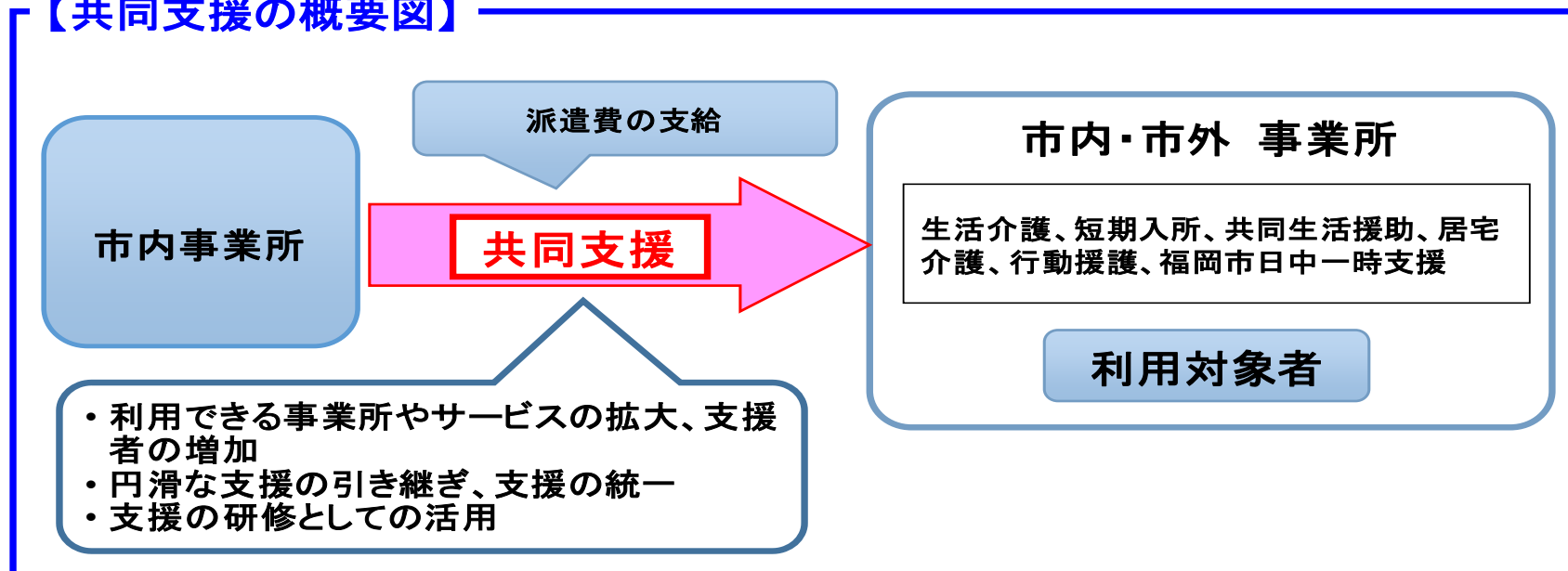
平成16年に発生した県内の入所者虐待事件を契機として、強度行動障がい者を特定の施設で集中的に支援するのではなく、複数の施設等で広く支援するための支援の実施方法等の研究活動を行うことを目的として、平成18年5月、福岡市強度行動障がい者支援調査研究会（以下「研究会」という。）を設置した。

## 福岡市における強度障がい者への取組②

| 年 度     | 内 容                                                                                                                            |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成18年   | <ul style="list-style-type: none"><li>福岡市強度行動障がい者支援調査研究会 発足</li><li>強度行動障がい者実態調査(1回目)</li><li>強度行動障がい者支援研修 実施</li></ul>        |
| 平成21年   | <ul style="list-style-type: none"><li>強度行動障害者の短期入所及び日中一時支援事業 開始<br/>(※ももち福祉プラザ→福岡市社会福祉事業団)</li><li>強度行動障がい者共同支援事業 開始</li></ul> |
| 平成24年   | <ul style="list-style-type: none"><li>強度行動障がい者実態調査(2回目)</li></ul>                                                              |
| 平成25年   | <ul style="list-style-type: none"><li>強度行動障害者に関する今後の取り組みの検討</li></ul>                                                          |
| 平成27年   | <ul style="list-style-type: none"><li>強度行動障がい者集中支援モデル事業 開始</li></ul>                                                           |
| 平成30年2月 | <ul style="list-style-type: none"><li>緊急対応受け入れ対応事業 受託</li><li>移行型グループホーム 開設</li></ul>                                          |
| 平成30年4月 | <ul style="list-style-type: none"><li>集中支援事業 本格実施</li></ul>                                                                    |

# 強度行動障がい者共同支援事業について

## 【共同支援の概要図】



| 利用<br>ニーズ | 既に強度行動障がいのある利用者がいる事業所等                         | これから強度行動障がい者を受け入れる事業所等                         | 事業所間で支援の共有化を図りたい、職員研修をしたいケース                  |
|-----------|------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 内容        | 利用できる事業所や、サービスを広げたい、対象者の支援ができる支援者を増やしたいと考えている。 | 新しく強度行動障がい者を受け入れるにあたって、円滑な引継ぎ等があれば受け入れられそうである。 | 複数サービスを利用しているが、支援の統一ができていない。また、支援の研修として参加したい。 |

# 集中支援から移行支援～そして地域生活に向けて～

## ①研修の実施

自宅では対応  
が困難!?

サービスに繋が  
らない!?

実家

関わる人や  
サービスが限定的!?

## ②共同支援の活用

入所施設・宿泊型自立訓練



通所施設

通所施設の確定  
(日中活動の支援の人と場)

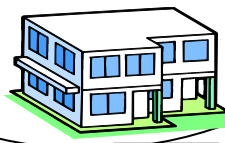
3～6か月間

## ③集中支援

※24時間、一貫した支援プログラム

応用行動分析の専門家を  
中心とした支援チーム

行動支援センター  
+ 地域生活支援センター

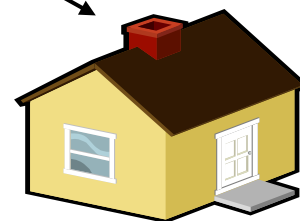


病院

## ④地域の 受け皿作り

1～1.5年間

中間の  
グループホーム



一般の  
グループホーム

正式入居

地域のグループホームへの移行を志向

# 福岡市における強度行動障がいに対するネットワークの状況

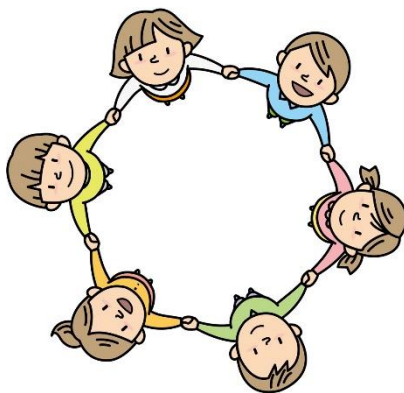


## 福岡市強度行動障がい者支援調査研究会

- ・強行施策の中核的役割
- ・支援実施方法等の研究活動

他事業所と連携した実践の積み上げ！

## 協働 連動



## 福岡市民間障がい施設協議会



## 福岡市障がい者等地域生活支援協議会

- ・相談支援体制の整備
- ・行政との連携強化
- ・強行に関する課題整理

他事業所職員とのネットワーク作りの場



# 障がい者地域生活・行動支援センター か～むについて



「か～む」(calm) には、  
「穏やか」という意味があり、穏  
やかに過ごしていただきたいとい  
う思いと、「come」(「おいで  
よ」) の意味も込めています。

# 障がい者地域生活・行動支援センター か～むの機能について

| 事業所名                                 | 事業名                         | 部門         |      | 定員               | 職員体制                                                                              |                        |
|--------------------------------------|-----------------------------|------------|------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 障がい者<br>地域生活・<br>行動支援<br>センター<br>か～む | 共同生活<br>援助<br>(グループ<br>ホーム) | 集中支援<br>事業 | 委託事業 | 2名               | ◆管理者:1名<br>◆所長:1名<br>(サービス管理責任者)<br>◆生活支援員:8名<br>◆夜勤支援員:1名(常勤換算)<br>◆世話人:1名(常勤換算) |                        |
|                                      |                             | 移行支援       | 自主事業 | 7名               |                                                                                   |                        |
|                                      | 短期入所                        | 緊急対応       | 委託事業 | 2名               | ◆緊急対応<br>コーディネー<br>ター:1名                                                          | ※直接支援<br>は生活支援<br>員が対応 |
|                                      |                             | 短期入所       | 自主事業 | 9名<br>(空床<br>利用) | ※直接支援は生活支援員<br>が対応                                                                |                        |

## 「緊急時の受け入れ・対応」機能を担う事業所に必要な機能

### ＜緊急時の受け入れ＞とは

介護者の急病等やむを得ない理由により、受け入れを行う日の前々日以降に受け入れ要請があった場合とし、受け入れ期間は最長で1週間とする。

#### 共通機能

(対象者に関わらず必要な機能)

- 短期入所の空床確保
  - ・ 緊急対応用として2床／事業所確保
- 緊急対応コーディネーター配置
  - ・ 24時間対応
  - ・ 事業所内・外との受け入れ調整
  - ・ 退所後の支援
  - ・ 対象者事前登録の調整
  - ・ 地域生活支援拠点等事業所との連携

#### 受け入れ対象別に必要な機能

|                                    |                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①<br>重度身体障<br>がい者（医<br>療的ケア含<br>む） | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 緊急対応コーディネーターは医療職</li><li>➤ 常勤の看護師を1名以上配置</li><li>➤ 医療的ケアは、たんの吸引、経管栄養等福祉型短期入所に対応可能なものに限る。</li></ul>                           |
| ②<br>強度行動障<br>がい                   | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 緊急対応コーディネーターは相談支援専門員</li><li>➤ 行動援護支給決定者（原則）を受け入れ</li><li>➤ 常勤の強度行動障害支援者養成研修受講者を1名以上配置</li><li>➤ 入所施設またはグループホームに併設</li></ul> |
| ③<br>虐待・その<br>他の緊急対<br>応           | <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 緊急対応コーディネーターは相談支援専門員</li><li>➤ ①及び②の対象者以外を受け入れ</li><li>➤ 入所施設またはグループホームに併設</li></ul>                                         |

※ 上記の必須機能のほか、人員確保や事業所の安定的運営のため事業者の判断により、相談支援センターや日中活動系の事業所を併設し、事業所の安定的運営に努めることとする。

# 強度行動障がい者集中支援事業について

- 強度行動障害のある人たちは、利用サービスが限られ、なかなか安定した居場所が見つけられない状況がある。

か～む(集中支援事業)では

1. 集中的に支援を行い、問題とされる行動の軽減を図る
2. 個々の障がい特性に応じた支援のあり方を分析、検討し、実践する。
3. 個々の支援のあり方を福祉サービス事業所と共有することで、福祉サービスの利用機会の拡充を図る。



地域での安定した生活を支えます！

# 障がい者地域生活・行動支援センター か〜む

## 【か〜むにおける集中支援】

### 運営体制

- 制度：グループホーム  
(+委託費)
- 定員：2名
- 利用期間：3か月
- 24時間支援
- マンツーマン対応



### 標準的なスケジュール

#### ※1ヶ月目

- 行動観察、アセスメント

#### ※2ヶ月目

- 行動問題へのアプローチ
- 生活リズムの確立

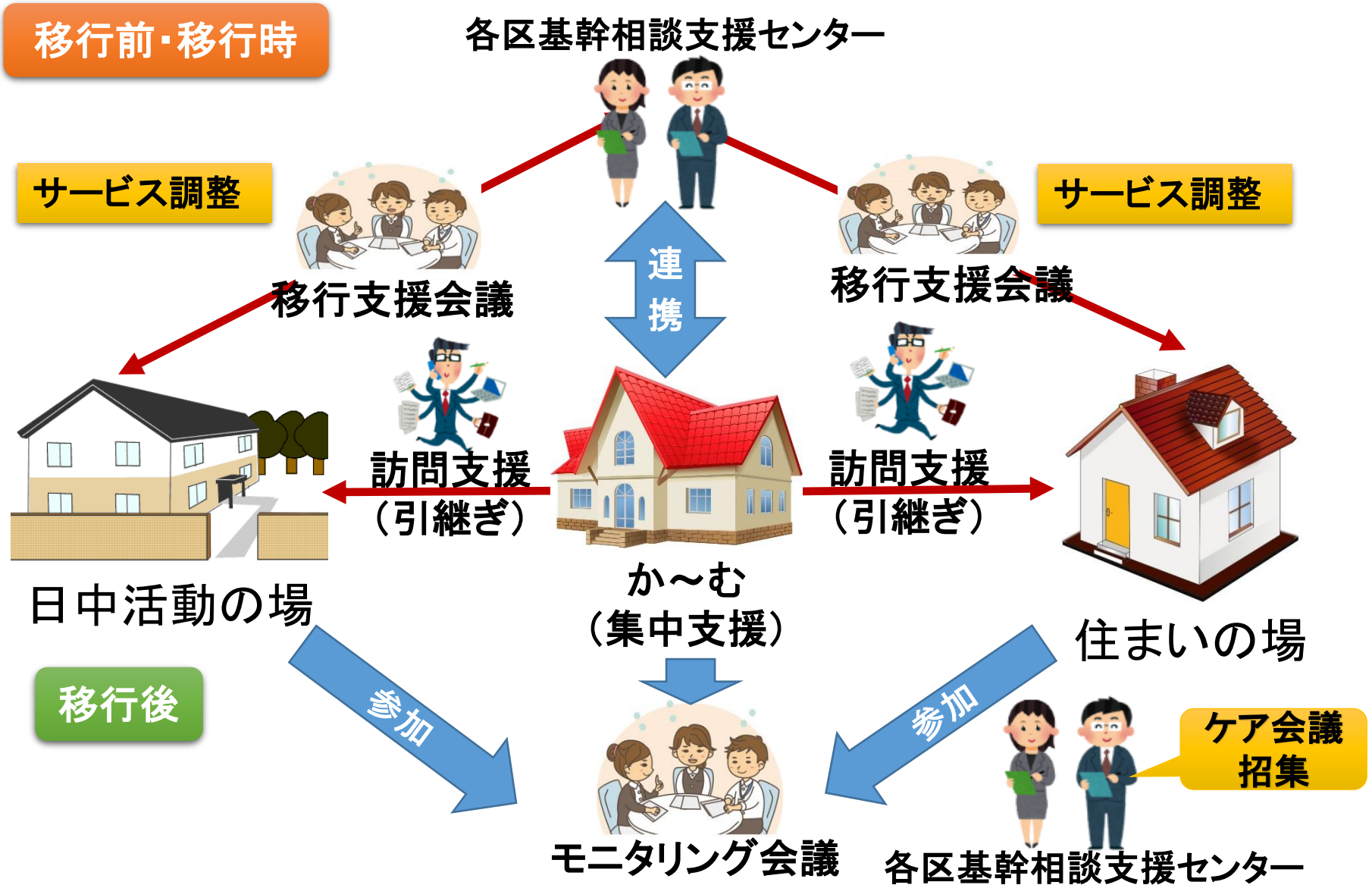
#### ※3ヶ月目

- 社会資源の活用、QOLの向上
- 地域の福祉サービスへの移行

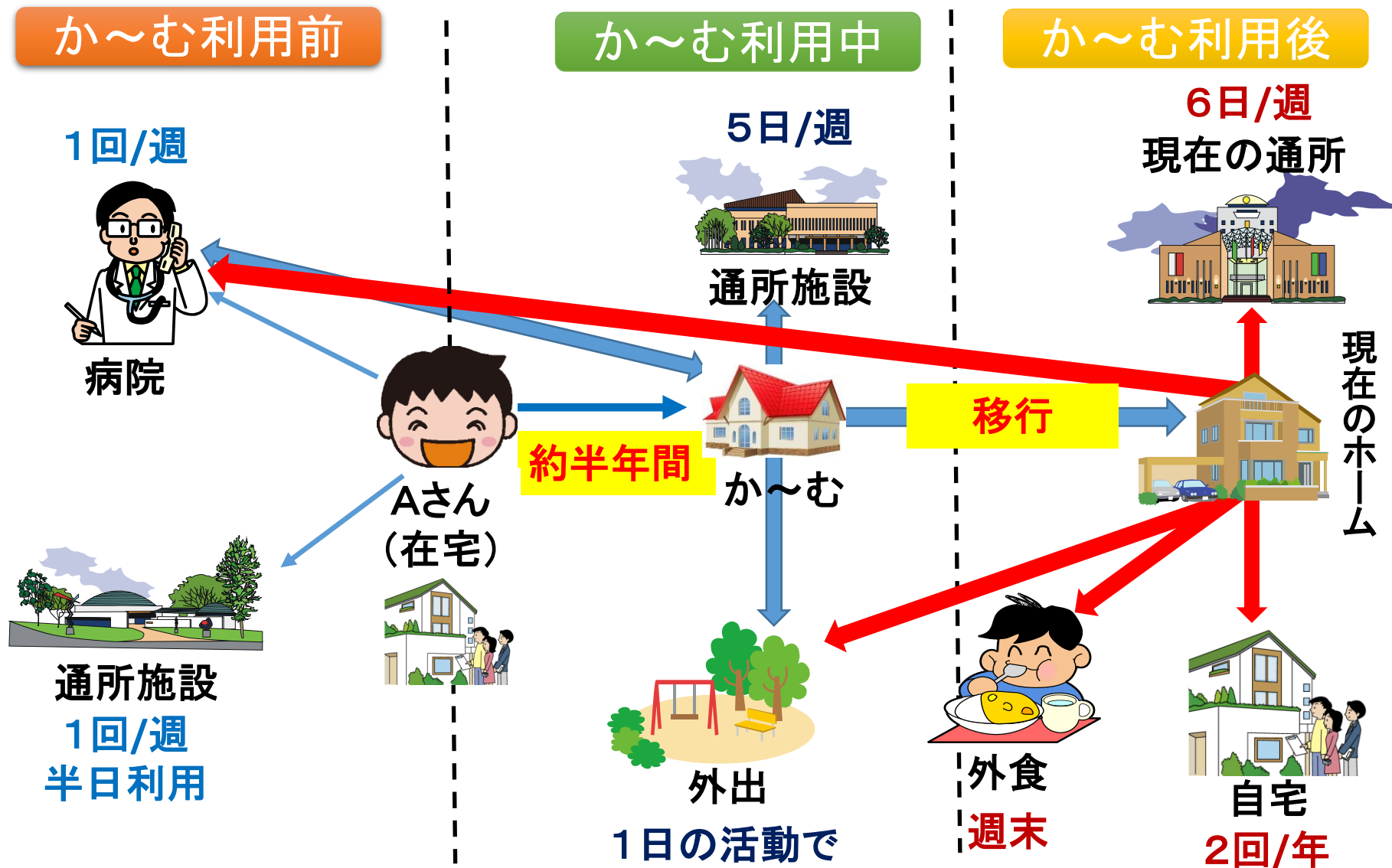
地域移行⇒利用終了

# 障がい者地域生活・行動支援センター か～む

## 【か～むにおける移行支援】



# A氏のか～む利用前後の生活状況の比較





# **強度行動障がい支援に対する 基本的な考え方について**



# 行動問題へのアプローチの考え方

## ※ 障害特性を理解する

- ➡ その人の生きづらさを理解し、配慮する視点。  
障害特性を強み(ストレングス)として活かす視点。

## ※ 行動の意味(機能)を理解する

- ➡ 適応行動もそうでない行動も学習の結果として考える。  
行動障害をコミュニケーション機能としてとらえる視点。

## ※ QOL(生活の質)の向上

- ➡ 行動問題の軽減が最終目標ではなく、その先にあるその人なりの充実した日々をサポートすること。

# 豊かな生活とは

- 安全で安心した家庭生活を送っていること
- 意味のある活動に参加できること
- 十分な人間関係があること
- 年齢相応の選択や意思決定が自分でできること
- 安全かつ健康でいること

Giangreco, Cloninger, & Iverson (1998)

※挑戦的行動は

「つまらない家庭生活」「退屈」「十分な人間関係がない」  
ことの影響が大きいと言われることがある！

# 支援の実際

- 記録について
- 個別支援計画と手順書について
- 自立に向けた様々な取り組みの紹介

# 障がい特性整理シート

## 生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 言葉で話せるが本人独特の意味合いがあり、支援者に本意が伝わりにくい。上手く伝わらないと大声を上げたり、職員を叩いたり、壁を蹴ったりする。
- 活動と活動の切り替え時を自分でできずに他者に確認行動が多くなる。

### ①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ・ **言葉で伝えられた内容を理解することが苦手**  
(言葉でやりとりしている)
- ・ **自分の気持ちを伝えるのが苦手**  
(言葉でやりとりしている)
- ・ **他者からの無意味な働きかけが苦手**  
(あいさつ等の慣習的なやりとりがある)
- ・ **場面切り替えが不安で確認行動が増える。**  
(支援者とのやりとりの中で進めている)

### ②障害特性を「強み」の表現に変換

- ・ 相手に自分の意思を伝えようとしたり、相手の言っていることを理解しようとする意欲がある。
- ・ 自分にとって意味のあるやりとりは意欲的
- ・ 困った時などに他者に頼ることができる

### ③他の場面から「強み」のリスト追加

- ・ 日常的に使用する文字の理解はできる。
- ・ 時計が読める。時間の概念はある。
- ・ 活動に取り組めば一定時間自分で過ごすことができる。
- ・ お金の概念があり欲しい物を購入する際に必要なものという理解はある。

### ④「強み」を活かした新たな環境

- 【コミュニケーション】
  - ※手順書を作って自分で進められるようにする
- 【場面の切り替え】
  - ※スケジュールを文字で示す。
  - ※スケジュールには文字で手続きを記載しておく。
  - ※自分で時間通りに活動を切り替えられたら、報酬がもらえる。

# 行動記録から行動の機能(意味)を理解する

## ■ 記録と分析

行動の意味(機能・役割)  
を考える！

行動問題 記録用紙 (1日用)

| 日付・記録者          | 状況要因 (C)<br>体調・環境等 | 先行条件 (A)                  |      |      | 行動問題の型 (B)               |    |      | 結果条件 (D)            |       |
|-----------------|--------------------|---------------------------|------|------|--------------------------|----|------|---------------------|-------|
|                 |                    | 場所                        | 活動内容 | きっかけ | どんな行動                    | 頻度 | 持続時間 | 対応                  | 本人の反応 |
| 6/30 8:50<br>木原 | ・出勤後<br>・自宅に帰る     |                           |      |      |                          |    |      |                     |       |
|                 |                    | 行動のきっかけ                   |      |      | 行動問題                     |    |      | 行動の結果               |       |
|                 |                    | ○ 場所<br>○ 活動内容<br>○ 直前の刺激 |      |      | ○ 行動の型<br>○ 頻度<br>○ 持続時間 |    |      | ○ 支援者の対応<br>○ 本人の反応 |       |
| 13:15<br>木止     | 昼食                 |                           |      |      |                          |    |      |                     |       |
| 13:22<br>長田     |                    |                           |      |      |                          |    |      |                     |       |
| 14:00<br>木止     |                    |                           |      |      |                          |    |      |                     |       |
| 14:25<br>木止     |                    |                           |      |      |                          |    |      |                     |       |
| 14:30<br>木止     |                    |                           |      |      |                          |    |      |                     |       |
|                 |                    | ※支援の方向性やポイントが見えてくる！       |      |      |                          |    |      |                     |       |

行動に間接的に与える  
影響

# 作業場面におけるABC分析に基づいた支援方針の立案

行動問題を起こさなくても済む環境へアプローチ

| A: 直前の状況                                    |                                 | B: 行動問題           | C: 直後の状況                |
|---------------------------------------------|---------------------------------|-------------------|-------------------------|
| <u>状況要因</u><br>作業量が多い<br>単純作業の繰り返し<br>(飽きる) | <u>きっかけ</u><br>苦手な作業<br>上手くできない | 大声を上げる<br>机を激しく叩く | 作業の手が止まる<br>その後、作業を再開する |

作業からの逃避機能  
イライラ解消の機能と推定



| A: 直前の状況                           |                      | B: 行動問題 | C: 直後の状況                 |
|------------------------------------|----------------------|---------|--------------------------|
| <u>状況要因</u><br>※作業量を減らす<br>※種類を増やす | <u>きっかけ</u><br>得意な作業 | 作業に取り組む | 「できたね」と褒める。<br>おやつタイムにする |

本人の能力や好みに合った文脈へ！

# 何を目指して支援するのか共通理解しよう！

## ～個別支援計画や手順書に基づいた支援～

利用者名                      個別支援計画書

作成日：平成 27 年 4 月 29 日  
サービス管理責任者：森口

1. 重点目標

|        |                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 長期目標 1 | 午前、午後在一定時間、作業活動に取り組めるようになる。                                                                                                                                                                                                                 |
| 中期目標 1 | 午前中の 1 時間を作業活動で過ごすことができるようになる。                                                                                                                                                                                                              |
| 短期目標 1 | 作業とその後のお楽しみの流れを理解して作業に取り組むことができるようになる。                                                                                                                                                                                                      |
| 設定理由   | ご本人の障がい特性から、家庭や通所施設での過ごし方が難しく、自由な時間が多くない現状が見受けられました。そのような中、ご本人からは外出や食べ物への要求が多く出てきているようです。<br>そこで、自由な時間が有意義な時間になるように、色々な活動に参加する機会を増やしていきたいと思います。<br>そのためには、ご本人にあった活動（主に作業）を準備し、さらに活動の後にご本人にとってメリットのある余暇活動を組み合わせることで活動への参加意欲が高まるのではないかと考えました。 |

支援目標



【支援の流れ】

| ご本人の動き                      | 支援者の援助                          |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 作業室へ移動、椅子へ座る             | 声かけを行う。                         |
| 2. 1 つ目の作業（作業ボックス上段）を実施する   | 声かけまたはモデルを示してやり方を教える。           |
| 3. 1 つ目の作業を終了ボックスへ片付ける      | 指さして終了ボックスを伝える。                 |
| 4. トークンパズルの 1 ビースを受け取り台紙に貼る | 手添えしながら貼る場所を教える。                |
| 5. 2 つ目の作業（作業ボックス下段）を実施する   | 声かけまたはモデルを示してやり方を教える。           |
| 6. 2 つ目の作業を終了ボックスへ片付ける      | 指さして終了ボックスを伝える。                 |
| 7. トークンパズルの 1 ビースを受け取り台紙に貼る | 手添えしながら貼る場所を教える。                |
| 8. 完成したパズルと報酬を交換する          | 「よくできたね」と賞賛しながらパズルを受け取り報酬と交換する。 |

【支援の手続き】

| きっかけ                   | 行動                                                             | 結果                                                              |
|------------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ・2 つ目のビースを受け取りパズルが完成する | （正反応）<br>トークンパズルを職員に手渡す<br>（誤反応）<br>トークンパズルを職員に渡さない。パズルに意識がない。 | 「よくできたね」と賞賛されて、報酬を受け取る<br>パズルの絵カードを指さし、カードと交換すると報酬がもらえることを声かけする |

注）拒否が強い場合は無理にさせようとしない（本人の「やりたい」活動を見直す）。

### 1) 重点目標

|        |                                                                                                                                                 |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 長期目標 1 | 午前、午後在一定時間、作業活動に取り組めるようになる。                                                                                                                     |
| 中期目標 1 | 午前中の 1 時間を作業活動で過ごすことができるようになる。                                                                                                                  |
| 短期目標 1 | 作業とその後のお楽しみの流れを理解して作業に取り組むことができるようになる。                                                                                                          |
|        | ご本人の障がい特性から、家庭や通所施設での過ごし方が難しく、自由な時間が多くない現状が見受けられました。そのような中、ご本人からは外出や食べ物への要求が多く出てきているようです。<br>そこで、自由な時間が有意義な時間になるように、色々な活動に参加する機会を増やしていきたいと思います。 |

### 設定



### 【支援の流れ】

| ご本人の動き                      | 支援者の援助                          |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 作業室へ移動、椅子へ座る             | 声かけを行う。                         |
| 2. 1 つ目の作業（作業ボックス上段）を実施する   | 声かけまたはモデルを示してやり方を教える。           |
| 3. 1 つ目の作業を終了ボックスへ片付ける      | 指さして終了ボックスを伝える。                 |
| 4. トークンパズルの 1 ビースを受け取り台紙に貼る | 手添えしながら貼る場所を教える。                |
| 5. 2 つ目の作業（作業ボックス下段）を実施する   | 声かけまたはモデルを示してやり方を教える。           |
| 6. 2 つ目の作業を終了ボックスへ片付ける      | 指さして終了ボックスを伝える。                 |
| 7. トークンパズルの 1 ビースを受け取り台紙に貼る | 手添えしながら貼る場所を教える。                |
| 8. 完成したパズルと報酬を交換する          | 「よくできたね」と賞賛しながらパズルを受け取り報酬と交換する。 |

### 【支援の手続き】

| きっかけ                   | 行動                                                             | 結果                                                              |
|------------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ・2 つ目のビースを受け取りパズルが完成する | （正反応）<br>トークンパズルを職員に手渡す<br>（誤反応）<br>トークンパズルを職員に渡さない。パズルに意識がない。 | 「よくできたね」と賞賛されて、報酬を受け取る<br>パズルの絵カードを指さし、カードと交換すると報酬がもらえることを声かけする |

注）拒否が強い場合は無理にさせようとしない（本人の「やりたい」活動を見直す）。



# 記録から支援の効果を視覚化する

fig1.夕食時における行動問題と生起回数

